



エピソード

シルバニアファミリーのウサギの人形を見つけると「ウサギさんで遊ぶ」と言って、人形の家や家具を出して遊びはじめました。大きさの違うウサギの人形をお父さん、お母さんに見立てて椅子に座らせ、「ごはん食べよう」「おいしい?」と言いながら、ごはんを食べているように人形を動かしていました。

しばらくすると、「お風呂ないなあ」と言ってお風呂を探し出しました。保育者が「お風呂ないのよ」と言うと、「ええ!!」と驚き、お風呂になりそうな物はないかと探し出しました。しかし、思ったような物が見当たらず、とても残念そうでした。

後日、人形のおうちにバスタブのおもちゃを準備すると、すぐに気づき、ウサギの人形と赤ちゃんウサギの人形を入れ、「一緒に入ろう」「あったかいね」と楽しそうに遊んでいました。「お風呂あってよかったね」と保育者が言うと、嬉しそうに「うん!」と頷いていました。

家庭だったら・・・

ごっこ遊びのやりとりや友だちとのおしゃべりの中から、たくさんの言葉を身につけてきた子どもたちです。なにげない会話の中で、「こんなこと考えていたのか」「おもしろいな」と楽しませてもらうことがあります。言葉数が増え、会話が広がるようになってきたので、ご家庭でも話をする機会を作ってみてください。楽しい話がいっぱい聞けると思いますよ。

保育者の思い

- ・ テーブルや椅子の配置を工夫して遊んでいたため、自分のイメージを表現する楽しさをじっくり味わって欲しいと考え見守りました。
- ・ 言葉のやりとりから解決方法を見つけしてほしいと思い「これどうするの?」と問いかけてきた時には「どうしようか?」「どうしたい?」と、一緒に考えられるように声をかけました。

子どもの育ちや学び

- ・ 自分の生活経験から、人形のお家にお風呂がないことに気づき、「なぜないの?」と、疑問に思いました。
- ・ 生活で使っているいろいろな言葉で人形に話しかけ、遊びのイメージを膨らませて楽しんでいました。
- ・ 語彙数が増え、保育者との会話で言葉のやりとりを楽しんだり、思いや考えが伝わる嬉しさを感じたりしていました。